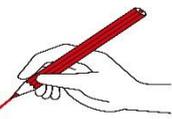


Move Mountains

5年生通信

10月9日70号



○俳句の評論文

あかあかと日はつれなくも秋の風

この俳句について、思ったこと分かったこと気付いたことを箇条書きするところから始めます。

もし良ければ、読者の皆様もやってみてください。

5年生の子たちはどんな解釈をするのでしょうか。

結論から書くと、この後**全員が発表をしました**。いきなり俳句を提示され、まずは自分で解釈（自力読解といいます）して、全員が考えを述べることができるというのは普通のことではありません。

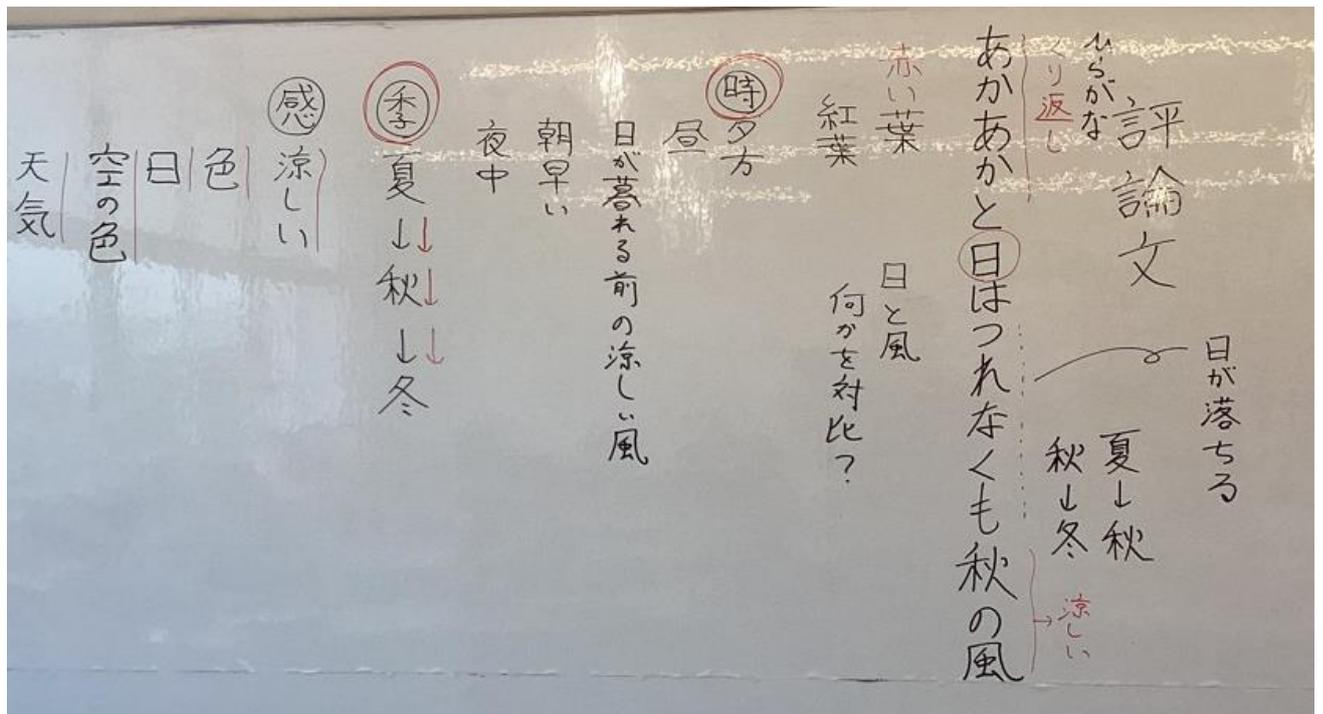
要因はいくつかあります。

まずは、与えられたテキストをきちんと読む姿勢が身に付いていること。そこから練り上げた考えにある程度の自信があること。

そして、その考えに対して攻撃されたり、批判されたりする恐れがないこと。

それどころか、言いたくて仕方がない。そんな雰囲気さえあること。

さて、5年生の分析・解釈です。



「あかあか」で繰り返しの技法が使われている

「日」と「風」で何かを対比しているのではないか

「あか」から「紅葉」も連想される

時間については、解釈が分かれています ・夕日 ・朝 ・夜中 など

季節は、「秋の風」で「秋」が確定しますが、秋の中でも残暑厳しい頃なのか、冬を目前に控えた頃なのか

こうして解釈が分かれるのがおもしろいところです。

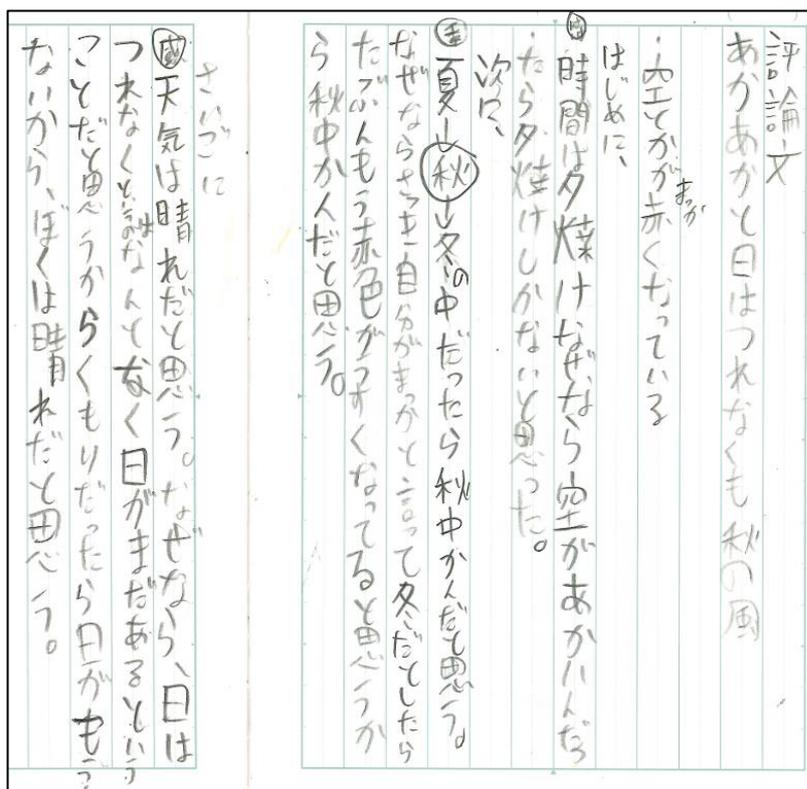
俳句について「正しい解釈」をしようと思うと、相当に調べなければならなくなります。というのは、この句の成立はおよそ300年前（1691年頃）なのですが、さらにさかのぼること700年、古今和歌集で藤原敏行朝臣が詠んだ「秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞ驚かれぬる」を踏まえた句ではないかと言われているのです。

つまり、**300年前の人が、さらに700年前の句を参考にした**なんていう情報は調べる他にたどり着く余地はありません。

俳句のプロを目指すのならいいですが、あくまで国語の授業内で鑑賞し、論理的に分析する授業なので、そこは目指しません。

あくまで読者としての解釈が最も大切です。

こうして、分析し、他の子の考えを踏まえながら挑戦するのは**評論文**です。いくつか掲載します。



あかあかと日はつれなくも秋の風

。秋の風、てかいてあるから秋の季節だと思った。

。日はまんなかいあるから、昼だと思った。

。

○この句の季節は、秋である。なぜなら、秋は季節だからである。秋のはじまりが、秋のおわりがもしれないけど、この句は、秋のことばしか季節は、てこないからである。

○空は暗れている。なぜなら、句がらして暗れを感じたからだ。

○時間たいは夕方だと思ふ。なぜなら、あかあかと、つづいているし、夕方もちよとあかいからである。



○これは、たて物の外である。なぜなら、中でもきどで外のふうけいをみれるけど秋の風は、かんじられなから。

季節は冬よりの秋だと思ふ。なぜなら、「日はつれなくも」で日がつれないほど早く日かすおのま表したからだと考へたからだ。

時間帯は夕方だと思ふ。なぜなら、あかあかとでものすこい赤い夕日を表していると考えたからだ。それに、「日」という言葉が句の真ん中にいることか、うし、まんでもいまい上がでもない夕日を表わしているのではないかと考へたからだ。

私はこの句も、読んだとき、あかあかとという夕日はつれないほど早くしずんでいってしまうけれど、秋の風が秋を感じさせてくれた。また、はげましてくれたと感じた。ちなみに私はつれるはつりかおなごで上に上げるを解し、くした。

この句の作者はこの句を書いたとき、こう感じることが満足とか、ポイントがなだれ持ちで書いたと思へる。なせなら、日がくまをしまつていし、んはんぼりじていたけど、秋の風がはげましてくれた。また、うれしいな気持ちになれたと思へた。

この句の作者は昔の家の緑がわで日かくる様子も見ていたと思へる。それで秋の日は短いというところも実感していたら、秋の風がふいてきたのも作者は感じたのだと思へる。

○この句の季語節は秋である。なぜなら、句に秋という秋の季語が入っているからだし、僕は夏から秋になる季語節の変り目だと思える。なぜなら、白きり百反から秋になる時に、すずしい風がふいてきて「秋だなま」というイメージがあくからだ。

○この句の時間帯は午後四時ぐらいだと田んぼ。なぜなら、日は「つれなくも」とかいてあって、おそろく日しずんでいないと思おれるが、句の始めに「あかま」とあるため、上の方はまだ青いが、地平線の方は赤くなっている。時間帯は「僕はこの句は、夕方になる少し前にかいた詩だと田んぼ」。

○この句の天候は少し雲がある。晴れだと風。なぜなら、秋の風と聞くと雲が出てくるイメージがあくが、ここでは対比して晴れを垂白いているんだと思ひます。

あかまとは「つれなくも」秋の風

季節は秋、季語は秋

「あかま」と表現するのは「あかま」と表現しているのだから、つれなくもと表現と工夫している。

評論文

時間は昼だと思つた。なぜなら、日という言葉がまんな中に入ることで、まんな中、つまりあかまとした太陽が南中していることを表現していることであらう。

日と風を対比していると思つた。

秋の風の弱い日と表現していると思つた。なぜなら、一番下には秋の風と書いてあるから。

あまり強調されていないから。

話者は田舎の鳥がたたく鳴いているところを強調していると思つた。なぜなら「は風がよくふいて気持ちいい」ということを強調していると思つたから。

季節は夏から秋に変わったときだと思つた。なぜなら、秋の風と最後に書いてある。秋に変わったときのイメージを強調していると思つたからである。

話者は、とまどしい日が来たというイメージ、もう夏が終わってしまったというイメージがあると思つた。

つれなくも

この句の一番強調したいのは中七の「日はつれなくも」というところだと思ふ。なぜ中七なのかというところ「あかあかと日」と、「秋の風」を対比してるため、暑い夏とすずしい秋の変わり目のこと意味していると言えらるからだ。また、「私がつれなくも」の意味を考えていると「暑い日は」を気にしなくていい。だんだんと澄んでくる秋の気持ちのいい風を話者は感じていたろうか？とすいそくすることができた。話者がわざわざ「あかあか」と言っているのか疑問に思ふ。夏から秋の変わり目がなめらかだ。た。た。いかに暑そうに「あかあか」と言わないはずだ。だから、その年の夏と秋は寒暖差がはげしかったであらうと考える。

この句を読んでいるとき、話者はひそかに秋の変わり目がぞみしいと感じているのだろうか？と感じた。なぜかというところ「秋の風」の位置にある。秋の風に感動したのであれば、(秋風や、秋風よ)句の最初にも、てくるはずだと思ふ。ただ、だからひそかに「暑い」というキーワードが大切に「あかあか」としている夏の日は恋しいと思っているであらう。

いかがでしょうか。

書いていた時間は実質的には30分くらいです。一度だけ、他の俳句で練習してから2回目の評論文です。5年生の2回目とは思えないくらい高いクオリティです。

例えば、本日(10/9)はグッと気温が下がったので、秋の句がより実感的にも分かったのではないのでしょうか。

これからも書いていきます。

☆お便りフォームはこちら☆

<https://forms.gle/ndGkDHTYcmB1bWyU9>

